

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 1 市民が安全に暮らせるまちになる

行動目標 2-2 災害による被害が少なくなる

(所管課名 消防本部総務課)

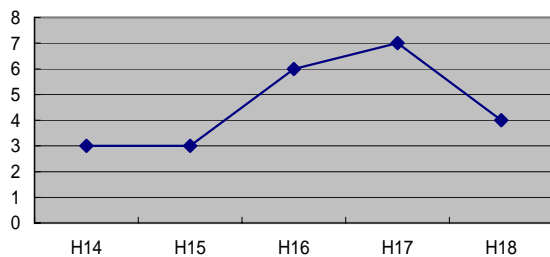
任務 大規模地震災害時に延焼棟数が少なくなる

任務の成果・活動指標の推移

耐震性貯水槽の設置数

H14実績	3基		
H15実績	3基		
H16実績	(四) 3基 (楠)	3基	
H17実績	7基		
H18目標	4基		

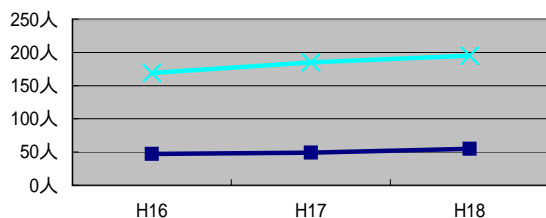
耐震性貯水槽設置数



大規模災害時支援要員の確保(職員OB, 団員OB)

H14実績	-		
H15実績	-		
H16実績	(職) 47人 (団) 169人		
H17実績	49人	185人	
H18目標	55人	195人	

大規模災害時支援要員



指標の説明

大規模災害時の対応として、ハード面から、火災延焼拡大を防止するために有効な耐震性貯水槽の設置個数を指標化するとともに、ソフト面で災害時の消防機能を維持・補完するために経験豊富な消防職/団員OBを組織化して人的強化を図るため指標に掲げた。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

市民の自助活動にあっては、自主防災組織の結成を中心に行ってきたが、平成8年度からは、単独組織の育成と並行して横の連携を一層堅固にするために行政地区を単位とした「地区防災組織づくり」に取り組んできた。地域住民の積極的な取り組みもあり平成16年度末現在で既に16地区で結成され、序々に地域防災力の認知度は高まってきている。残る地区についてもひととおり地区防災組織作りの説明を終え、いくつか設立準備を進めているところである。(平成16年度に防災対策課に所管替え)

大規模災害時の消防水利の確保(水利の二重化)を行うため、市街地、準市街地を中心に耐震性貯水槽の設置を行った。

既存の貯水槽においても大規模災害時の側壁崩壊、水漏れ防止等をはかるため、簡易耐震化(ゴム引き加工)を進め、機能維持に努めてきた。

平成18年度

耐震性防火水槽40tの設置(伊坂町・桜台)
耐震性防火水槽の設置60t(西富田・楠町本郷)

これからの課題、施策等展開の方向性

地震等の大規模災害時、消火栓が使用不能となった場合の消防水利として活用するため、必要地域に計画的に耐震性防火水槽を設置していく。

四日市市消防支援隊等の活用を図り、設立から育成段階に入った自主防災組織の活動を側面から支援し、地域防災の充実強化を図る。

三重県民四日市センター(旧北勢県民局)へ配備された起震車を有効に活用すると共に、熟練した操作員の確保について検討していく。